インフォメーション

問い合せ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010／FAX 022-268-4042　Mail sendai@sapo-sen.jp

初めての市民活動を応援します「はじめての助成金申請」

日　時：10月26日（土）
「はじめての助成金申請　助成金基礎編」10:00～11:00
「はじめての助成金申請　見せ方アピール編」11:10～12:10

内　容：市民活動を立ち上げ予定の方、助成金の申請を考えている方を対象に、活動資金についての基礎から、知っておきたい助成金の特性、申請書を書くコツを学ぶ講座を実施します。どちらか一方だけでも、両方でも受講可能です。
会　場：仙台市市民活動サポートセンター　研修室5
定　員：各15名（先着順）
対　象：●これから活動を始めようと考えている方　●新たに助成金申請を検討している方
●資金調達の必要性に迫られている団体　●助成金の獲得に苦労している方・団体　●新規設立団体・NPO法人など
参加費：無料
申込み：メールでお申込の方は、件名を「はじめて講座」として、氏名・電話番号・質問事項をお知らせください。

サポセンスタッフから

マチノワひろばでフードドライブをします!

10月は、国連が定めた世界の食料問題を考える「世界食料デー」月間です。サポセン1階マチノワひろばでも、「フードドライブ」を実施します。
「フードドライブ」とは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄りそれらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。マチノワひろばに設置するフードボックスに、余っている食べ物をお寄せください。

設置期間：2019年10月1日（火）～10月31日（木）
収集食品：賞味期限が1カ月以上あるもの。
（例えば、缶詰、お米、インスタント麺、乾麺、レトルト食品など）

本来は食べることができたはずの食品が廃棄される「食品ロス」を減らし、必要としている人に届ける活動に参加してみませんか。（松田）

サポセンスタッフから

マチノワギャラリー 10月の展示をご紹介!

展示団体：NPO法人ふうどばんく東北AGAIN
NPO法人ふうどばんく東北AGAINは、余剰生産や賞味期限等の理由により毎日廃棄される食べ物を生活困窮者に届ける活動をしています。普段の活動紹介、「食品ロス」の啓発展示を行います。

◀場所はサポセン正面玄関入ってすぐ（展示例）

●マチノワひろば、マチノワギャラリーを活用したい方は、お気軽にサポセンスタッフまでご相談ください。（宮﨑）

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日　10月9日（水）、23日（水）

開館時間　月曜日～土曜日　9:00-22:00
日曜日・祝日　9:00-18:00
休館日　毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

［ぱれっと読者アンケート］サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010　FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
［HP］https://www.sapo-sen.jp　［Blog］http://blog.canpan.info/fukkou/

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。［指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日］

発行　仙台市市民活動サポートセンター
発行日　2019年10月1日
編集　特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン　PEACE Inc.
編集人　太田貴　菅野祥子　松村翔子　水原のぞみ　小林正夫
発行部数　3000部
配布場所　市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと10

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えました! 祝

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと　2019 No.242

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

長町商店街連合会 飲食部会 代表
大友（おおとも） 隆嗣（たかつぐ）さん（39）

商店街から地域をつなげたい

生まれ育った太白区の長町商店街でカフェバーを営む大友さんは、長町商店街連合会飲食部会の代表を務めています。飲食部会として、地域のお祭りや長町駅付近に立ち並ぶ大型施設や大型店のイベントに参加し「商店街や個々の店を知ってもらおう」と奮闘中です。大友さんが飲食部会を立ち上げたのは2018年。「食」は誰もが親しみやすいテーマです。商店街がこれまで開催してきたイベントでも飲食店の企画が好評だったことから、連合会から飲食部会立ち上げの話が持ち上がりました。「賑わいが薄れた商店街の活気を取り戻したい」と、代表を引き受けた大友さん。飲食部会への参加を、一軒一軒回って呼びかけ。「周囲に支えられながら活動が始まった」と振り返ります。イベントにちなんだオリジナル企画や商品を考えるなど、工夫を凝らした大友さんたちの活動が知られるにつれ、直接、企業や大型施設から飲食部会に出店依頼が来るように。「私は、地域と商店街をつなぐ“橋渡し役”」。長町を駆け回り、今日も役割を果たします。

取材・執筆　平塚千絵

特集　外国人と日本人が地域で共に暮らしていくために

突撃レポート！　一番町四丁目からアカペラ文化を広げる

長町商店街連合会 飲食部会

TEL 022-738-7463（PUBLIC.COFFEE&BAR内）
長町一丁目商店街、サンカトゥール商店街、長町駅前商店街の3商店街を総括する「長町商店街連合会」の中の組織です。現在、3つの商店街いずれかに属する飲食店有志20店舗が参加。参加店舗は個人経営の寿司店や菓子店、フランチャイズチェーン店など様々です。これまで「長町バル」、「長町ランチクーポン」といったイベントを主催。最近は長町をホームグラウンドとするプロバスケットボールチーム「89ERS」とコラボ企画を行うなど幅広く活動しています。

特集

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

外国人と日本人が地域で共に暮らしていくために

少子高齢化など日本の深刻な人手不足を背景に、外国人人材の受け入れ拡大を図ろうと2019年4月、出入国管理法が改正されました。新しい出入国管理法では、日本国内で充分な人材の確保ができない14の業種において「特定技能」での新たな人材受け入れが可能になりました。日本で働く外国人の暮らしを支える仙台の協働の取り組みを紹介します。

外国人の暮らしをサポートしたい

仙台多文化共生センター

仙台多文化共生センター センター長
（公益財団法人仙台観光国際協会
国際化事業部国際化推進課 交流係 係長）
きくち あきよし
菊池哲佳さん

外国人支援の会　OASIS
（Open Assist & Support In Sendai）
そりだ えみこ
反田恵美子さん

仙台出入国在留管理局

宮城労働局

宮城県行政書士会

仙台弁護士会

専門相談会と多言語対応で支援拡大

仙台市は2019年6月、これまでの仙台国際センター 1階の「交流コーナー」を改称し、「仙台多文化共生センター」を開設しました。法改正により受け入れ拡大が見込まれる外国人労働者への情報提供や生活相談に応じる一元的な窓口です。相談員は、英語、中国語に加え、新たに韓国語、ベトナム語、ネパール語に対応。多言語での支援内容の充実を図っています。また、仙台出入国在留管理局、宮城労働局、宮城県行政書士会、仙台弁護士会と連携し専門相談会を実施。「専門相談会を始めてから、今まで利用のなかった外国人の利用が増えた」とセンター長の菊池哲佳さんは手ごたえを感じています。

外国人支援の会OASIS（以下、OASIS）は、1991年から当時の「交流コーナー」で外国人の暮らしをサポートしてきたボランティアグループです。現在も約13人のメンバーで活動を継続。日本語でのコミュニケーションや、日本の生活に不慣れな外国人のために、付き添いボランティアをしています。主な同行先は、公的機関や教育機関、医療機関。通訳をしながら手続きなどの手助けをしています。外国人を労働者としてだけでなく、住民として受け入れるための基盤整備に力を発揮しています。

外国人が抱える問題の複雑化

OASISの反田恵美子さんは、「交流コーナー開館当初は、イベント情報や観光情報を求める外国人が多かった」と振り返ります。また、「学都仙台」には留学生も多く、中には家族と来日する人もいます。家族は地域社会との繋がりが希薄で、OASISのメンバーは、子育てや住居確保のための不動産手続きの仕方、該当する公的支援など、自身の実体験や人生経験をもとに、生きた情報を提供し支えてきました。最近では労働問題や離婚による親権、相続手続きなど専門家でなければ対応が難しい相談も持ち込まれるようになりました。入国の経緯や在留資格が多様になる中、「外国人が抱える問題は、今後ますます複雑化し、専門的知識が必要な内容も増えていくだろう」と菊池さん。法的な助言を行っている仙台弁護士会の大林弘典さんは、「日本語が不自由な外国人の方が法律相談に関しての情報を得ることは困難です。窓口の一元化により、困っている外国人の解決の一助になりたい」と意気込みます。

外国人とともに暮らしていくために

仙台出入国在留管理局は「外国人も、社会を構成する一員。生活する上での様々な相談に対応する機能は重要です」と共生社会実現に向け窓口一元化に期待します。宮城県行政書士会も「相談内容は、在留ビザの取得、日本語の勉強という外国人特有の相談を除けば、国民年金保険、近隣住民トラブル、転職、嫁姑関係など日本人とほとんど同じです」と、私たちと同じ生活者であることを示します。反田さんは「日本の母のつもりで、困っている人を少しでも手助けをしたい。日本に来て良かったと思って欲しい」と思いを込めます。　（取材・執筆　松田照子）

● 仙台多文化共生センター
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山　仙台国際センター会議棟 1 階（午前 9 時～午後 5 時）
TEL 022-265-2471　FAX 022-265-2472　Mail tabunka@sentia-sendai.jp

活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

釜石の奇跡

執筆者:NHKスペシャル取材班 福田和代　発行:(株)イースト・プレス
発行日:2015年1月20日

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県釜石市。しかし釜石市では、市内の小中学生ほぼ全員が津波の難を逃れ、自らの命を守りました。この出来事は、「釜石の奇跡」と呼ばれました。この裏には、群馬大学の片田敏孝教授の指導のもと取り組んだ、防災教育がありました。あの日、子どもたちはどのように行動し、自らの命を守ったのか。本書には、いのちを守るための未来への教訓が記されています。

活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

「第18回 仙台ゴスペル・フェスティバル」ボランティア募集

仙台ゴスペル・フェスティバルが11月9日（土）に開催されます。様々なジャンルの歌声が街角を飾る"杜の都の歌声祭典"を一緒に盛り上げるボランティアを募集中。応募締切は10月31日。会場の準備や撤去、観客を誘導し、歩行者の通路確保やプログラム配布等の活動があります。

●事前説明会
日時:10月26日（土）13:00～14:30
会場:仙台市市民活動サポートセンター 研修室3
主催・問い合せ:仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会事務局
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3仙台市市民活動サポートセンターレターケースNo.157
TEL　070-1148-0015
FAX　020-4666-7886
Mail　gosfes.volu@gmail.com
※ご応募はなるべくメールでお願いします。

サポセンスタッフ 水原のぞみの突撃レポート！

取材団体名 / 伊達な街四丁目アカペラストリート実行委員会

一番町四丁目からアカペラ文化を広げる

連絡先　実行委員長　後藤久郎さん
Mail info@dateaka.com TEL 090-2849-0970

▲2019年10月5日（土）、6日（日）、一番町四丁目商店街に4つのアカペラステージが出現します。

「2019年のテーマは、"Just Smileうたで笑顔の花を咲かせよう"です」と話すのは、伊達な街四丁目アカペラストリート（通称:伊達アカ）実行委員会、実行委員長の後藤久郎さんです。伊達アカは、毎年10月に仙台市青葉区一番町四丁目アーケードで開催される、東北最大級のアカペライベント。応募総数400組超から選ばれた140組が、楽器や伴奏の無い、人の声だけで美しい歌とハーモニーを披露します。出演者の持ち時間は15分。自分の出番が終わると、次の出演者の為のステージ運営者となって順繰りに働き、皆でイベントを支え盛り上げます。

元々、後藤さん自身がアカペラの歌い手として、「東北にアカペラ文化を根付かせたい」と活動を続けていました。2009年頃の第2次アカペラブームで歌い手が増加し、「アカペラを披露する場所がない」との仲間たちの声が、後藤さんの耳に届くように。「アカペラに特化したイベントをやりたい」。後藤さんの思いを後押ししたのは、当時の一番町四丁目商店街販売促進委員長で、現在は同商店街専務理事であり、伊達アカ最高顧問の工藤浩由さん。2009年10月一番町四丁目アーケードで第1回目の伊達アカが実現しました。

「商店街という開放空間だからこそ、様々な人にアカペラに触れてもらえる。ここでアカペラに出会って始めてくれる人たちもいるんです」と後藤さん。2019年には11回目の開催を迎えます。これからも、仙台からアカペラ文化を熱く発信していきます。